



Study on efforts for medical accident prevention education at physical therapy schools in Japan

Koeda, Hideki

(Degree)

博士 (保健学)

(Date of Degree)

2011-03-25

(Date of Publication)

2011-10-04

(Resource Type)

doctoral thesis

(Report Number)

甲5149

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/D1005149>

※ 当コンテンツは神戸大学の学術成果です。無断複製・不正使用等を禁じます。著作権法で認められている範囲内で、適切にご利用ください。



氏 名 小枝 英輝
博士の専攻分野の名称 博士（保健学）
学 位 記 番 号 博い第 5149 号
学位授与の 要 件 学位規則第 5 条第 1 項該当
学位授与の 日 付 平成 23 年 3 月 25 日

【 学位論文題目 】

Study on efforts for medical accident prevention education at physical therapy schools in Japan(理学療法士養成校における医療事故予防教育への取り組みに関する研究)

審 査 委 員

主 査 教 授 藤野 英己
教 授 種村 留美

論文内容の要旨

専攻領域 理学・作業療法学
 専攻分野 運動機能障害リハビリテーション学
 氏名 小枝英輝

論文題目 (外国語の場合は、その和訳を()を付して併記すること。)

Study on efforts for medical accident prevention education at physical therapy schools in Japan
 (理学療法士養成校における医療事故予防教育への取り組みに関する研究)

論文内容の要旨 (1,000字~2,000字でまとめること。)

〔目的〕理学療法士養成校での理学療法医療事故予防教育の実態を明らかにし、理学療法安全教育についてどのように取り組むべきか、また、効果的な教授方法を探ることを目的とした。〔対象〕理学療法士養成課程のある208校を対象とした。〔方法〕郵送法による自記式無記名質問紙調査を行った。調査内容は、理学療法医療事故予防に関するカリキュラムの実態と改善の必要性、理学療法医療事故予防に関する教授状況、学生が起こした事故・インシデント事例の把握状況、分析方法、活用状況、学生が事故を起こした時の対応、養成校と臨床実習施設との理学療法医療事故予防教育についての取り組み、臨床実習施設との理学療法医療事故予防教育に関する取り組みについてである。〔結果〕理学療法医療事故予防に関するカリキュラムの実態は、臨床実習の目的・目標に理学療法医療事故予防に関する記述がある養成校が77.3%であった。また、医療事故予防に関する教育内容が一貫性を持って配置されるべきだと54.7%が改善の必要性については訴えていた。過去1年間における教育内容では、理学療法医療事故の概念について56.6%で実施されていた。教育方法では、説明を主とした講義が中心であった。学生が起こした事故・インシデントに関する情報は、事故の種類、件数、原因、実習施設への対応について70%台であった。情報収集の方法としては、66%が実習施設や指導者から聞いていた。分析については13%しか行っておらず、分析結果の教育活動への活用については、実習オリエンテーションの検討が62.3%であった。実習施設との連携については、医療事故予防教育に関して協働した取り組みがあると答えたのは7.6%、話し合いの機会がある34%、実習施設と理学療法医療事故に関して取り組みがあると答えたのは68.6%の養成校が答えていた。〔結論〕理学療法士養成校における医療安全教育については、看護師養成校と比べ遅れていることが明らかとなった。今後、理学療法安全教育について、卒業時の到達目標を定め、一定の考えのもとに、一貫性を持った教育がなされることへの期待が高く、理学療法医療事故予防教育についての認識が高まっていくことが推察された。また、知識や技術だけを指導するのではなく、臨床場面を想定した中で、わかりやすい安心感のある接遇やコミュニケーション技術など、総合的に知識や技術を統合し活用するような体験を、学内から学外教育へと連携した教育システムの中で体験されていくようなシステムの構築が必要であると考える。

指導教員氏名： 嶋田 智明 先生

論文審査の結果の要旨

氏名	小枝英輝		
論文題目	Study on efforts for medical accident prevention education at physical therapy schools in Japan (理学療法士養成校における医療事故予防教育への取り組みに関する研究) (外国語の場合は、その和訳を併記すること。)		
審査委員	区分	職名	氏名
	主査	教授	藤野英己
	副査	教授	種村留美
	副査		
			印
			印
要 旨			
理学療法士養成校での理学療法医療事故予防教育の実態を明らかにし、理学療法安全教育についてどのように取り組むべきか、検討することを目的とした。理学療法士養成課程のある208校を対象とした。郵送法による自記式無記名質問紙調査を行った。調査内容は、カリキュラムの状況や実習施設との連携等に関する6項目についてである。カリキュラムの実態は、臨床実習の目的・目標に記述がある養成校が77.3%であり、教育内容が一貫性を持って配置されるべきだと54.7%が改善の必要性について訴えていた。実習施設との連携については、医療事故予防教育に関して協働した取り組みがあると答えたのは7.6%、話し合いの機会がある34%、実習施設と理学療法医療事故に関して取り組みがあると答えたのは68.6%の養成校が答えていた。理学療法士養成校における医療安全教育については、遅れていることが明らかとなった。今後、理学療法安全教育について、卒業時の到達目標を定め、一定の考えのもとに、一貫性を持った教育がなされることへの期待が高く、理学療法医療事故予防教育についての認識が高いことから、理学療法士教育においてもカリキュラム上に体系的に位置付けるべきであると考え。臨床実習施設との連携においては、事故時の連絡や報告の経路、保険加入については実施されているが、患者や学生が被害者になったときの対策が不十分であり取り決め事項として明示されていない実態が明らかとなった。この結論は重要な知見を得たものとして価値ある集積であると認める。よって、学位申請者の小枝英輝は、博士(保健学)の学位を得る資格があると認める。			
掲載論文名・著者名・掲載(予定)誌名・巻(号)、頁、発行(予定)年を記入してください。 Study on efforts for medical accident prevention education at physical therapy schools in Japan. Hideki KOEDA, Kentaro TOKUHISA, Tomoaki SHIMADA. Journal of Physical Therapy Science. Vol.23 No.3, 2011. (平成23年8月掲載予定)			